



米内山陽子

登場人物

弘美（三六）
利男の妻

飛鳥（三六）
利男の姉

街子（三六）
利男の駈け落ち相手

利男（三〇）
銭湯の長男

この戯曲は、銭湯で上演されることを前提に書かれたものです。
浴場が舞台、脱衣所が客席。

「奥」と表されたものはボイラー室から出入りし
「前」と表されたものはロビーより出入りします。

前説

利男が入ってくる。

利男 どうも皆さん、ようこそ小杉湯へ。賑々しいご来場誠にありがとうございます。これから八〇分、存分にお楽しみいただけますよう、務めます。誰だお前、と言う声が聞こえてきそうです。僕はこの長男でございます。当年とって三〇歳。三年前に出奔し、現在は熱海で板前の見習をしています。という、僕の存在、そしてこれから始まるお話、もちろんフィクションです。銭湯です。皆様の近くをお湯が通りかかるかも知れません。電子機器は電源を切り、鞆の奥深くにお沈めください。お手洗いはお済みでしょうか。あちらです。窮屈なところでございます。始まりますと動けない気まずい行きづらい。三重苦でございますのでなにとぞ今のうちにお済ませください。どちら様もよござんすか？

よござんすね？ それではチタキヨ第三回公演。「包囲網」。開演でございます！

音楽、盛り上がり、開演。

一日目

飛鳥がデッキブラシと、防水のスピーカーを持ってやってくる。大音量で浮かれトンチキな曲を掛け、ノリノリで掃除し始める。弘美が奥から慌てて入ってくる。

弘美 音大きい！

飛鳥は気付かない

弘美 うるさい！

弘美は操作しようとするが、やり方が分からない。いろいろ押してみるうちに音楽が止まる。

飛鳥 あ

弘美 やつと消えた。母屋までもう（音が）

飛鳥 ごめん

弘美 もうちよつと小さくお願いします。お父様もお母様もびっくりしちゃうから。

飛鳥 気をつける！

弘美 お姉さん、最初は気をつけてくれるんだけど、一週間もするとまたぐわーっと大きくなるから。

飛鳥 もう気をつけるってば。ごめんね。

弘美 お願いします。

飛鳥 お父さんとお母さんは？

弘美 お父様は、今日も部屋から出てこない。ドアの前にお膳置いとききました。お母様は、コタツ。

飛鳥 テレビ

弘美 (頷く) またちよつと大きくなっちゃったみたい。手伝います。

飛鳥 ありがとう。

弘美は首から提げた靴下を胸元に仕舞う

飛鳥 鏡お願い

弘美 はい

弘美は鏡を拭き始める。

飛鳥 あのさあ。

弘美 なんでしょう

飛鳥 ほんと、ごめんね

弘美 やめましょう

飛鳥 なんか、なんど謝っても足りないっていうか

弘美 わたしもう、ここの嫁っていうか、娘だと思ってます。置いてくれるだけでありがたいです。：

…このやりとり何回目？

飛鳥 飽きずに繰り返すよ！

弘美 わたしは飽きちゃったな

飛鳥 だって娘って言う割にあたしにも敬語、っていうか、なんかタメ語と敬語が入り 交じったやつ。

やめて。ちゃんとため口聞いて

弘美 勘弁してください。今過渡期なんです。

飛鳥 過渡期？

弘美 敬語からため口に、こう、スライド？

飛鳥 時間かかるなあ

弘美 すいません。

飛鳥 いい人いないの？

弘美 唐突

飛鳥 いや、だって

弘美 わたしはトシちゃんの妻ですから。

飛鳥 だってあいつが駆け落ちしてからもう三年だよ？

弘美 帰ってきます

飛鳥 バイト君に言い寄られてるでしょ

弘美 は？

飛鳥 こないだ見ちやった。「俺が弘美さん連れ去っちゃだめっすか」

弘美 だめっす。

飛鳥 連れ去られちゃえばいいのに

弘美 連れ去られて欲しいんですか？

飛鳥 そういう意味じゃなくて

弘美 わたし、どこにも行くところがないんですよ？ 知ってるでしょ

飛鳥 だけど

弘美 未だに全方位腫れ物扱いでも、お母様にマイルドに嫌われてても、わたしはここでトシちゃん待ち

ます。最近じゃお客さんに「逃げられさん」って呼ばれるのも苦じゃなくなってきたし。なんか可愛いとすら思えてきた。逃げられさん

飛鳥 卑屈にならないで

弘美 お姉さんこそ、家帰らなくていいんですか

飛鳥 帰ってるよ。終わった後とか。休みの日とか。

弘美 深夜だし。定休日木曜だし。旦那さんカレンダー通りだったでしょ？

飛鳥 平気平気。大人だし。

弘美 離婚されませんか？

飛鳥 今状況が状況だから。わかってくれてるよ

弘美 すいません。

飛鳥 謝らないで。結構悪くないって思ってるから。悪くないってそういう意味じゃなくてね、

弘美 わかってますよ

飛鳥 やっと親孝行できてるなって。

弘美 親孝行

飛鳥 今まで何にも出来なかったからさ

女湯から、洗面器が倒れる音がする。

二人、驚く。

弘美 今誰かいます？

飛鳥 いないはずだけど。

言いつつ、奥に消える飛鳥。

入れ違いのように、前から利男が入ってくる。

二人は目が合う。

利男 弘美……？

弘美 トシちゃん……？

利男 弘美！

弘美 トシちゃん？

利男は浴場に飛び込むなり土下座。

弘美 え？

利男 申し訳ありませんでした！

女湯の脱衣所から声がする

街子 (声) 離して！離して！

飛鳥 (声) いいからお前はこっち来い！

弘美 え？

前から、街子を引っ張って飛鳥が入ってくる。

街子 トシ、飛鳥どうにかして！

飛鳥 利男？

利男 姉ちゃん……マツチ離して。

飛鳥 利男コラア！ お前なにノコノコ帰ってきてどんじゃコラア！ 女連れってどういふことじゃコラア！

利男 (弘美に向き直り、また土下座) 離婚してください！

弘美 飲み込めない。そのお願いは飲み込めない。ここで土下座してるのは、三年前「好きな人が出来ました」って置き手紙だけ残して去ったわたしの夫です。そしてわたしは彼の妻です。あそこで元ヤン全開なのが夫の姉で、その隣で涼しい顔してるのが、夫と逃げた女です。あ、登場人物は以上です。以上なんですけど、三年も連絡一切なくて、どこにいったかもわからないわたしの夫が、帰ってきました。わたしが何を言う間もなく、先手必勝土下座。元ヤン怒る。女涼しい顔。わたしは？ どうするべき？ 泣くべき？ よくわからないので、踏みつけることにしました。

弘美は利男を踏みつける。

街子 やめて！

利男 マッチ！ いいんだ。こうされても仕方ないんだ！

街子 だって、悪いのはわたしなのに……！

利男 いいんだ！ これで弘美の気が済むなら、これでいいんだ！

弘美 やだ。なんか、ドラマが、過剰。乗っかりたくない。でもこの足を下ろすタイミングがわからない。だからわたしはこう、（もっと踏みつける）

利男 そうだ弘美！ もつとだ！

街子 やめてえ！

弘美 こう！

利男 もつと来い！

街子 やめて！

弘美、足を下ろす。

弘美 全然スツキリしない……

利男 いいんだ、俺なんてもんは、もつと踏まれていいんだ。

街子 違うの、わたしが悪いの！

弘美 うるさい！ トシちゃん、顔上げて。やりたくてやってる土下座見せられても何とも思わないから

利男 あ、おお。

飛鳥 あんたも嘘泣きやめな。

街子 嘘泣きじゃない

飛鳥 あたしにばれないとでも思ってるの？

街子 飛鳥、久しぶりだね

飛鳥 べたべたすんな

弘美 旧交暖めるのやめてもらっていいですかね

街子 ごめんなさい、懐かしくて……親友、だから

飛鳥 元だクソ街子

弘美 で？ トシちゃん。今更帰ってきて、なにか言ったかな？

利男 離婚、してほしい。正確に言うと、離婚届を出して欲しい！

弘美 なんで？

利男 なんでって、もう、三年も経っちゃったし。

弘美 うん、それで？

利男 あの、マッチ、彼女

街子 はい（手を上げる）

利男 子どもが出来て

弘美 え？

利男 子どもが出来て、その、ちゃんと、親父になりたいって思ってた

飛鳥 オイコラおめえどの面下げて言うんだコラア！

利男 わかってる！ あのときの子、もう大きくなったろ？ 二歳、三歳か。男だった？ 女だった？

その子にも、ちゃんと謝りたいし、償いをしたいって、思ってる。

飛鳥 (遮って) 利男! やめな!

利男 え?

弘美 (息が荒くなっている) お姉さん、どうしよう

飛鳥 弘ちゃん

弘美 うまく、息、できない、

弘美は過呼吸のように引きつけを起こす。

飛鳥は慣れた手つきでポケットからビニールを取り出し、口に当てる。

利男 え? え?

街子 過呼吸……

飛鳥 歩ける? 母屋戻ってていいよ。メとくから

弘美 (頷いてよろよろと奥に去る)

残される三人。

飛鳥 あんたらのせいだよ。弘ちゃんあんななっちゃったの

利男 なにがあったの……？

飛鳥 街子、妊娠したの？

街子 はい

飛鳥 ほんとにこいつの子？

街子 は？ 何言ってるの？

利男 俺の子だよ

飛鳥 あたしこいつに男盗られたことあるからね。25人。

街子 今言わなくてもいいでしょ

飛鳥 今言わなくて何時言うの。最後は弟かよ、すげーなお前。

利男 姉ちゃん。ごめんものすごく気になっちゃってるんだけど

飛鳥 なに

利男 てんご、ってなに

飛鳥 彼氏、彼氏、片思いだよ。

街子 盗る気なんてなかったの、あれも、あたしが悪いの……

利男 片思いのやつは振られただけじゃねえの？

飛鳥 どの面下げて……

利男 父ちゃんと母ちゃんにも、謝らないとなつて

飛鳥 まあね、あんたのことは許すだろうね。長男様だから。

利男 そうかな？

飛鳥 (街子に) 表出たところに居酒屋あるから。そこで待つとけば。

街子 ……わかった

飛鳥 シャッター開けてやれよ

利男 あ、うん

飛鳥 ゆっくり行けよ！

街子と利男は前から去る。

飛鳥は深くため息をつく

と、奥から弘美が顔を出す

弘美 お姉さん

飛鳥 寝てなくていいの

弘美 うん、ごめん。お母様がまだコタツに居て。あの人達、いないね？

飛鳥 ホントに、申し訳ない。

弘美 お姉さん悪くない

飛鳥 弟と、元だけど、今全然そうじゃないけど、友達だった子だから

弘美 でもお姉さん悪くない

飛鳥 お母さんどかしてこようか？

弘美 大丈夫。ちよつとここにいる。

飛鳥 利男戻ってきちゃうけど。

弘美 ……え？

飛鳥 あの、ちゃんと話さなきゃって思って。街子は外させた。

弘美 ああ

飛鳥 勝手なことしちやっでごめん。でも、その、辛いかなって、弘ちゃんの口からそれが語られるのは、

辛いかなって、思うんだよね。だから（涙ぐむ）

弘美 なんてお姉さんが泣くの

飛鳥 ゴメン。

弘美 ……トシちゃんと二人にしてくれる？

飛鳥 え？

弘美 父親だから、あれでも。わたしの口から言わないと。

飛鳥 大丈夫？

弘美 お母様、どかしてもらってもいい？

飛鳥 了解！ ……どうでもいいこと言っている？

弘美 なに？

飛鳥 敬語抜けたね

弘美 スイマセン。敬語すつ飛んじやった

飛鳥 いーのいーのその方がいいの。

弘美 あ。

利男が前から入ってくる。

利男の着衣は乱れている。

飛鳥 何をやってたんだよ！

利男 え？

飛鳥 口紅取れ馬鹿。

利男は脱衣所の洗面台で洗い流す。

飛鳥 ねえ一個聞いていい？

利男 なに

飛鳥 お前に神経って概念あるの？

利男 意味が、よく……？

飛鳥 いやみだよ！ （弘美に）ねえ、あたし心配なんだけど

弘美 大丈夫だってば。もう行って。

利男 姉ちゃん行っちゃうの

飛鳥 ちゃんと二人で話しな

利男 居てくれよ

飛鳥 クソ野郎

飛鳥は未練を残しながら、去る。

残されて、黙る二人。

利男 ……元気だった？

弘美 さっきの見てたでしょ

利男 ああ、うん

利男 姉ちゃんいつから来てるの

弘美 (遮って) 三年前。この意味わかるでしょ

利男 ああ、うん

利男 父ちゃんと母ちゃん……

弘美 お父様は引きこもってらっしゃいますお母様は日がな一日テレビの前で常に何かを召し上がってらしてこの三年で二〇キロは太られました

利男 なんでそんなことになってるの

弘美 なんででしょう

利男 ああ、うん

利男 元気だった？

弘美 それさっき聞いた。この三年のわたしを一言で表すならば、針のムシロ。この辺一帯が全部針で出来てんのかなってレベルの針のムシロ。

利男 (想像して) うわあ

弘美 他に質問は？

利男 ……

弘美 じゃあわたしの番ね

弘美 美人だね

利男 ん？

弘美 女の人。

利男 ああ、うん。

弘美 いつから？

利男 え？

弘美 え？ なんで聞き返す？

利男 そこから？

弘美 あんな書き置き一枚で、何を知れるわけ？

利男 ……ですね。

弘美 いつから。

利男 俺が、中学で、

弘美 ちよつと待って

利男 はい

弘美 中学って、中学？ 小中高の中学？ 中学校？

利男 あ、はい。

弘美 OH……

利男 俺がマッチと出会ったのは、あ、マッチって言うのは今の嫁です。

弘美 こっち別れてないから！

利男 街子で、マッチ。マッチは姉ちゃんと同級生で、親友で、俺の憧れの人だった。

街子、奥から出てくる。

回想シーン。

街子 利男君、お邪魔します。

利男 ……つす。

奥から飛鳥が顔を出す。

飛鳥 街子、こっちこっち。

街子 ごめんごめん。

利男 姉ちゃんは当時バリバリのコギャル。マッチはおとなしめで、ルーズソックス全盛の時代に黒のハイツックスをはいてた。

街子 そんなこと覚えてるの？

利男 それで一発で恋に落ちた。初恋だった。マッチが大学に入ると同時に、親にわがまま言って家庭教師に来てもらった。家庭教師。エロくないすか？俺もう興奮抑えるために必死で勉強したもんね。すっげえ成績上がった。結構いい高校に受かって、

街子 おめでどう！お祝いしなきゃね

利男 このベタな展開。すぐくね？俺、勇気振り絞って「付き合ってください！」

街子 ……うん。(去る)

利男 これが、一番最初

回想終わり。

弘美 ちよつと待って、え？

利男 なになに？

弘美 頭が付いていかない。なんで、わたしと結婚したの？

利男 マッチに振られたから。

弘美 あれ結構ひどいこと言われてるな

利男 マッチが就職してすぐに振られて、それっきりで暫く会わなかった。

弘美 うん、もうなんでここから聞いているのか分かんないけどうん。

利男 でも俺ずっとマッチが好きで。いろんな子と付き合ってみたけどだめで。俺が二四の時。

弘美 二四？ あれ？

利男 マッチが結婚した。

弘美 あの人結婚してたの？

利男 俺ほんとシヨックでさスゲー辛くて、飲んで飲んで飲みまくって、弘美の店に入った。

弘美 ここでわたしか。

利男 それで、弘美と付き合っすぐ結婚して

弘美 そこは流すんだ

利男 二年後。二六の時。マッチの旦那さんが、過労で死んだ。俺行ったんだ。葬式。

回想。

街子が出てくる。

街子 来てくれて、ありがとうね

利男 マッチ、大丈夫？

街子 (首を振り、利男にもたれかかる)

利男 (抱きしめる) ここで再燃しちゃって。

街子、嫌らしく去る。

回想終わり。

利男 そっからずるずる……

弘美 ……はい。

利男 俺にとって、運命の人なんだ

弘美 ……はい。

利男 だからごめん、離婚して欲しい

弘美 (顔を手で覆う)

利男 (土下座しようとして)

弘美 やりたいだけの土下座ならしないでって言ったでしょ！

利男 ゴメン

弘美 離婚しない。絶対。

利男 ……え？

弘美 あんただけ楽になんかささせない。そうだね、わたしの五年間返してくれたら考えるよ。五年間と、いなくなったあたしの子、返して。

利男 いない？ え？

弘美 そりゃ知らないよね？ 知るわけないか！ 馬鹿みたい！

弘美は息が上がってくる。

利男 大丈夫？

弘美 触るな

ポケットから笛を出し、吹く。

利男 え？ なに

どたばたと飛鳥がやってくる。

飛鳥 弘ちゃん！

弘美 お姉さん

飛鳥は弘美の口に袋をかぶせる。

弘美はゆっくり呼吸する。

利男 姉ちゃん、子ども居なくなっちゃって……

飛鳥 弘ちゃんの目の前で言わせる気？

利男 ……え？

飛鳥 なんで帰ってきたの？ 三年でこっちはもうあなたの知らない生活になってるの。あなたの勝手に

かき回さないで

利男 今度こそちゃんとしたいと思って……

飛鳥 そんなのあなたのわがままでしょ！

利男 弘美、俺、

飛鳥 もう出てって。母屋の鍵、変わってるから。

飛鳥は弘美を抱えて奥に去る。

利男 ……今度こそ、ちゃんと……

利男は前に去る。

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

包囲網（おためしサンプル）

2014年11月26日 初版発行

著 者 米内山陽子 © 2014年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-49-2903
